

愛知学泉大学 2022（令和 4）年度自己点検評価 外部評価員評価書（まとめ）

外部評価委員

A 評価委員

B 評価委員

C 評価委員

1. 教務委員会
指摘事項の有無 有 (A 評価員、C 評価委員) 無 (B 評価委員)
評価 評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員) 評価しない (なし)
<p><コメント></p> <p>A 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> シラバス作成→シラバスの第三者点検と授業評価アンケート実施→授業改善計画書作成→学生へのフィードバックと卒業時アンケートを連動させてカリキュラム及び授業の充実と満足度の向上を計っている。 基礎学力向上への支援を行っている。 教員が、授業の充実と学生の満足度向上のために丁寧なシラバス作成などに使う時間は相当多いと思われる。授業以外で教員が学生と対話（哲学する）する時間や授業のバックグラウンドとなる<u>研究に費やすことができる時間の余裕はあるのかを教員からの聴き取りで検証していただきたい。</u> <p>B 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 学生に対し、基礎学力の推進や教職員に対し授業の充実を呼びかけるなど愛知学泉大学の魅力にもつながると思いますので、よろしくお願いします。 <p>C 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 事業 1-1「教育効果を高めるシラバの作成」について 記載内容が修正されていないシラバスを無くすことが求められる。 事業 1-4「履修登録の支援体制の強化」について 特に年度をまたいで開講している科目に注力し、履修登録ミスを防ぐ方策が求められる。 事業 2-1「RST・数的理解テストの実施」について 読解力が低い新入生に対しては、具体策を講じることが期待される。

2. 学生委員会	
指摘事項の有無	有 (A 評価委員、C 評価委員) 無 (B 評価委員)
評価	評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員) 評価しない (なし)
<コメント>	
A 評価委員	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 気になる学生の情報を共有し、学生に対して相談室等の活用の啓発を行っている。 2. 一人暮らし学生・寮生のためのオリエンテーションを行っている。 3. 学生意見箱の記入用紙に「記名」も加えて大学の回答を本人に説明できるようにした。 4. 各種奨学金に関する情報提供と相談支援を行っている。 5. 「合理的配慮」は法的義務になっていることを教職員全体で認識し、共有していただきたい。 	
B 評価委員	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活に対して、よく観察されている。 	
C 評価委員	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 事業 1-2 「キャンパスマナー向上活動の実施」について、 学内の昼食スペースを何らかの方法で確保することが望まれる。 2. 事業 3-1 「各学科の気になる学生の情報共有」について 修学意欲の低下による欠席過多学生に対して、具体的な対応策の実施が求められる。 	
3. 就職委員会	
指摘事項の有無	有 (A 評価委員、C 評価委員) 無 (B 評価委員)
評価	評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員) 評価しない (なし)
<コメント>	
A 評価委員	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 早期就職活動の支援により成果を出している。 2. 各専攻の特徴を生かした就職支援を行っている。 3. 就職困難学生に個別支援を行っている。 4. 出口の連携を構築していただきたい。 5. 社会で活躍している卒業生を招いて3年生・4年生を対象に仕事現場の現状を聴かせる会を各専攻で催してほしい。(前期1回開催 後期1回程度開催) 6. 社会で活躍している卒業生と就職委員会・指導教員が連携して各専攻の優秀な学生の就職採用を実現させていただきたい。 	
B 評価委員	
<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの生活専攻のインターンシップ参加率が気になります。改善事項にも書いてありましたが、よろしく願います。個人的な希望ですが、多くの学生さんに教育関係に興味を持って欲しいと思います。 	

C 評価委員

1. 事業1「早期就職活動の支援」について
計画的に就職活動が行えるよう、資格取得を早期から準備させることが望まれる。
2. 事業2「本学の特徴を生かした就職支援」について
自主的に就職活動できない一定数の就職困難学生には、特別な支援策の実施が望まれる。

4. 教職課程委員会

指摘事項の有無 有 (A 評価委員、C 評価委員) 無 (B 評価委員)

評価 評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員) 評価しない (なし)

<コメント>

A 評価委員

1. これからの時代、「教育の質」が大切になってくる。その教育を担える人材育成に力を注いでいる。
2. 教員、保育教諭として活躍している卒業生を招いて、学生に教育、保育の必要性・大切さと仕事について話してもらい、学生と語り合い、将来は教育、保育を担う者としてのプライドを学生に持ってもらえるようにしていただきたい。
3. 公立学校・こども園だけでなく、学校法人安城学園のように質の高い教育・保育・地域貢献を行っている私立学校・こども園・保育園はたくさんある。
学泉大学・短大として、質の高い教育・保育・地域貢献を行っている私立校・園との連携を強めることも本学志願者増加に繋がるのではないか。ご検討いただきたい。

B 評価委員

1. 教員になろうとしている学生が本当に少なくなっていることに危機感を感じています。こどもの生活専攻では幼、保、小学校の3種類の教員免許が取得できるので、本当に良い学科であると思っています。後は動機付けでしょうが、我々もお手伝いをしていかなければと思っています。

C 評価委員

1. 事業1「正規採用数増」について
入学段階から小学校希望が増加する取り組みが期待される。
2. 事業2「教員希望増」について
自主的なボランティア体験の時間確保が望まれる。
3. 事業3「学修意欲の強化」について
教職シンポジウムにおいて長期休業以外での時間設定が可能となる方策が求められる。

5. FD委員会

指摘事項の有無	有 (A 評価委員、C 評価委員)	無 (B 評価委員)
評価	評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員)	評価しない (なし)
<p><コメント></p> <p>A 評価委員</p> <p>1. 学泉大学の教育の内容・方法の改善を図るための教員の組織的な取り組みを8つの目標を掲げて推進している。</p> <p>2. 「課題発見力」は大切であるが、課題を発見する自分を発見しようとしていない学生(自己発見の機会に恵まれなかった学生)も多くいるのではと推察する。教員は授業時及び大学生活全般で各学生を多面的に観察してプラス面だけでなくマイナス面に隠れている能力をも指摘してあげることで各学生の自己発見意欲を育み、各学生の視座が構築でき学生が習得した専門能力を活かせるようになるのではないだろうか。</p> <p style="padding-left: 2em;">* そのためには、教員は授業だけでなく授業時間以外の学生と対話する時間も必要になるが、多い会議とそのため資料作成などに時間をとられて学生と対話(哲学する)する時間がなかなかとれないのではないかと危惧している。</p> <p style="padding-left: 2em;">「自己点検・評価報告書」からは教員の様子が見えてこないので、<u>このことを教員の声聴いてしっかり検証していただきたい</u>。</p> <p style="padding-left: 2em;">提案:女子バスケ部の木村功監督は<u>選手を多面的にきめ細かく観察して各選手の力をのばし優勝に導いてきました</u>。このこと(下線部)をテーマに、教員に向けて「木村監督の話聴く会」を開いてはどうでしょうか。</p> <p>3. 学泉大学の教員評価システムはきめ細かく丁寧で評価できるが、チェック結果に過敏になると学泉大学は学生という製品を製造する工場のようになり、教員はそのための機械部品(交換可能な)のようになり、学泉大学教員組織及び教員と学生の有機的関係が弱くなっていくことを危惧する。</p> <p>4. 学泉大学の教員の組織的な機能について心配がある。車のハンドルには「遊び」があるが、学泉大学の教員に「遊び」(時間の遊び、心の遊び)がどの程度あるかを教員の声を真摯に聴いてチェックしていただきたい。「遊び」が少なすぎると任期制教員が多い現状に於いては教員の組織的な機能が弱まり、更には教員と学生の授業時間以外での対話(哲学)の機会が少なくなって、学泉大学の教育に支障を来す。</p> <p>5. 「Chat gpt」活用に対する学泉大学・短大の考えを明確にし、その考えを教職員が共有し、学生に伝え指導を行っていただきたい。</p> <p>B 評価委員</p> <p>1. 目標達成のために必要な専門能力を保持、改善させる方策活動をより一層展開していただきたいと思います。</p> <p>C 評価委員</p> <p>1. 事業 1-2「教育方法と教育評価方法を明確にした授業展開」について 教育方法および教育評価方法を明確にした授業展開を可視化する取り組みが期待され</p>		

<p>る。</p> <p>2. 事業 2-1「教育課程の充実」について 現行カリキュラムの完成年度後には、市場ニーズに応える新たな教育課程の開発が求められる。</p> <p>3. 事業 4-1「IR を活用した学修成果を検証すること」について IR を活用した教育方法改善への実質化が求められる。</p>
<p>6. 学びの泉開発委員会</p>
<p>指摘事項の有無 有 (A 評価委員、C 評価委員) 無 (B 評価委員)</p>
<p>評価 評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員) 評価しない (なし)</p>
<p><コメント></p> <p>A 評価委員</p> <p>1. 目標 1.~3.の PDCA サイクル構築は評価できる。</p> <p>2. 「学びの泉グランプリ」の開催支援は評価できる。</p> <p>3. 「学びの泉グランプリ」は PDCA サイクル構築の演習としても効果がある。 今後も継続して学生の質を高めていていただきたい。</p> <p>B 評価委員</p> <p>1. よく検討されていると感じました。</p> <p>C 評価委員</p> <p>1. 事業 1-2 「「智性」 pisa 型学力の PDCA サイクル」について 学修活動・学生生活・就職活動における各年度の「智性レベル」の設定および能力支援のシステム化が期待される。</p> <p>2. 事業 3-3 「「行動」社会人基礎力の PDCA サイクル」について 学生の「社会人基礎力外部評価」後の能力を支援する取り組みが望まれる。</p> <p>3. 事業 4 「学生のセルフチェック」 デジタル表示した「能力レベル」運用の実質化が期待される。</p> <p>4. 事業 7 「学びの泉グランプリ」の開催支援 「智性・徳性・行動」審査ルーブリックの質的改善への支援が望まれる。</p>
<p>7. 情報教育委員会</p>

指摘事項の有無	有 (A 評価委員、C 評価委員)	無 (B 評価委員)
評価	評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員)	評価しない (なし)
<p><コメント></p> <p>A 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> ICT を活用した授業及びオンライン教育の活用を推進させることは評価できる。 デジタル技術を活用して学生の可能性を引き出していただきたい。 デジタル技術を活用して各学生の PDCA サイクルを推進するために、情報教育委員会は教務委員会、FD 委員会と連携していただきたい。 AI 活用についての学泉大学・短大の姿勢を明確にしていきたい。 特に「Chat gtp の使い方」を教務委員会、FD 委員会、各学科と連携し早急に検討していただきたい。 <p>B 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> オンラインシステムは普及していますが、運用が活発でないところは高等学校も同じです。更なる活用を職員が考え、実践をする手立てを構築したいと思っています。 <p>C 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 事業2「ICT を活用した授業およびオンライン教育の活用推進」について <ol style="list-style-type: none"> 2-1：授業での活用や教員の理解度を上げる取り組みが期待される。 2-2：オンライン会議を円滑に実施するための設備整備が望まれる。 事業3「動画配信スタジオの環境整備およびシステム構築の推進」について <ol style="list-style-type: none"> 3-1 動画配信スタジオ活用への取り組みが求められる。 3-3 動画制作普及への更なる具体的な対策が望まれる。 		
8. 管理栄養学科		

指摘事項の有無	有 (A 評価委員、C 評価委員)	無 (B 評価委員)
評価	評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員)	評価しない (なし)
<p><コメント></p> <p>A 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入学定員の確保を 100%達成した。 2. 専門性を生かした就職先内定の支援をしっかりと行った。 3. 学生の実態把握・情報共有をすることで、学修支援、生活支援を行った。 4. 学修面での悩みを抱え休・退学に至る学生を減らすために、受験生に対して入試出願前に本学科の学修内容への理解を深めてもらえるよう努力した。 5. 学修支援、生活支援はしているが休・退学者が増加している現状から引き続き丁寧な指導と支援をお願いしたい。 6. 保育園、こども園、幼稚園にも質の高い栄養士（管理栄養士）を送っていただきたい。 *質の高い保育を行っている園がたくさんあります。そのような園は質の高い栄養士（管理栄養士）を置くことを必須としています。 <p>B 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 非常によく学生に対応し、丁寧な取組をされていると感じました。ただし、学籍異動の学生が多いことに少し驚きました。 <p>C 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目標 1「学生募集」について 総合型選抜・公募型選抜の歩留まりの低下および総合型選抜からの入学者休退学への重点的な対策が求められる。 2. 目標 2「学修・生活支援」について 学籍異動への総合的な見直しが期待される。 3. 目標 3「資格取得支援」について 複数の資格取得を目指す学生にとっての具体的な負担軽減策の実施が望まれる。 4. 目標 4「専門性を活かした就職先内定の支援」について 未内定学生への内定獲得支援方策の工夫が求められる。 		
<p>9. ライフスタイル学科</p>		

指摘事項の有無	有 (A 評価委員、C 評価委員)	無 (B 評価委員)
評価	評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員)	評価しない (なし)
<p><コメント></p> <p>A 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学科会議で毎月、ライフスタイル学科の魅力を相互に報告し合って (哲学して) いる。 2. 「スタジオ A.、B.、C.」を選択必修科目にしてプロジェクト型の学修を全員が体験できるようにした。 3. 後期科目の「キャリアデザイン講座」を3年生全員に義務付けた。 4. これからのライフスタイルとその価値観は多様であってほしい。教員は学生と対話 (哲学) しながら学生のマイナス面も観察し、そこに内在している「宝物」を引き出していきたい。そのことで卒業後の進路も多様になっていくのではないか。 5. 「キャリアデザイン講座」に卒業生を招き、彼らが活躍している教育現場や営業現場などの「生の話」を学生に聴かせて、出口との連携を強めていっていただきたい。 <p>B 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個々への対応が十分できていると思います。高等学校家庭科教員になってくれることを切に願います。 <p>C 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目標1「学生受け入れ」について 系列校・教育連携校からの入学者確保に向けた具体的な改善が求められる。 2. 目標2「学生の教育・指導」について 休退学者、長期欠席者減少への取り組みが望まれる。 3. 目標3「学生の進路支援」について 家庭科教員以外での専門職や高校生が魅力を感じる就職先への進路実績が期待される。 		
10. こどもの生活学科		
指摘事項の有無	有 (A 評価委員、C 評価委員)	無 (B 評価委員)

評価	評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員)	評価しない (なし)
<p><コメント></p> <p>A 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期面談で学生の状況を把握・支援して、休・退学者減に努めている。 2. 公務員 (保育士) 合格者 9 名を出した。 3. 子育て、子育て支援、教育はなぜ大切なのか、そして、これからの社会ではどうあるべきかを学生と話し合っていたきたい。 4. 卒業生の現職保育士・保育教諭、小学校教員から話を聴く機会を年 2 回ほど設け、現場では喜びだけでなく、苦しみやたいへんなことをチームでどう対処しているか、チームで働くことの意味と大切さを学生に知っていたきたい。 5. 志願者増には公務員合格者を出すことが大切なことは理解しているが、高い教育・保育・地域貢献を行っている私立校・園との連携を強めることも本学志願者増加に繋がるのではないか。そして、なによりも学生にとって必要であるとする。 6. こどもに影響を与えることができる絵本や歌を作れる学生も育てていただきたい。 <p>B 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校教諭が足りない中、是非学生さんには頑張ってもらいたいと思っています。昔は、小学校に教育実習にいけない学生もいたように記憶していますが、早期より実施されている努力は素晴らしいと思います。 <p>C 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目標 2 「学生の教育・指導」 および目標 3 「学生の進路支援」 について様々な機会に、学生の意欲を引き出す仕組みの工夫が求められる。 		
11. 国際交流委員会		
指摘事項の有無	有 (C 評価委員)	無 (A 評価委員、B 評価委員)
評価	評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員)	評価しない (なし)
<p><コメント></p> <p>A 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「派遣留学」及び「受入れ留学」は学生を他国の生活文化に触れさせることができる。 2. 留学対象大学の国家状況を把握して学生 (派遣学生、受入れ学生) の安全第一をしっかりとっていたきたい。 <p>B 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コロナウイルス感染症の影響の中、様々な影響を受け変更等をされていると思いますが今後も頑張って頂きたいと思っています。 <p>C 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業 1 「長期派遣留学」 および事業 3 「長期受け入れ留学」 について 		

中国・韓国・カナダ・台湾の長短期留学の派遣と受け入れに関する業務を円滑に遂行する体制の確立が望まれる。
12. まちづくり委員会
指摘事項の有無 有 (A 評価委員、) 無 (B 評価委員、C 評価委員)
評価 評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員) 評価しない (なし)
<コメント> A 評価委員 1. 地域貢献、ボランティア活動、産学連携の学外活動は学生及び教員の社会人基礎力育成に効果がある。 2. 学外活動によって、学生は学内とはちがった人たちからいろいろなことを学ぶことができる。 3. ボランティア活動、産学連携等に参加できなかった学生にも地域の人への行い、考えから学ぶ機会を与えたい。そのために、地域の人の中から外部講師を選出して学生に話をさせていただく機会を設けることを検討していただきたい。 B 評価委員 1. 学生のボランティア精神が存分に発揮されていると思います。コロナの影響で様々な課題がある中で、よく工夫・努力をされていると感じます。 C 評価委員 特になし。
13. 学生会
指摘事項の有無 有 (A 評価委員、) 無 (B 評価委員、C 評価委員)
評価 評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員) 評価しない (なし)
<コメント> A 評価委員 1. 学生会活動は学生の社会人基礎力を育成できる。 2. 学生会で活動している学生の輝きを評価していただきたい。 * 授業ではそれほど輝かない目が学生会活動ではイキイキと輝いている目をこれまでたくさん見てきた。社会人基礎力を育成し学生を成長させることができる学生会活動に今後も力を入れていっていただきたい。 B 評価委員 1. 学生に対する援助、手助けがよくなされていると感じました。 C 評価委員 特になし。

14. 潜在能力開発研究所
指摘事項の有無 有 (A 評価委員、) 無 (B 評価委員、C 評価委員)
評価 評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員) 評価しない (なし)
<p><コメント></p> <p>A 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究プロジェクトの実施→研究発表会、講演会は、教員のみならず学生の学びにとっても有益である。 2. 研究報告会に学生の参加を促していただきたい。 3. 講演会を、大学・短大の各学科に対応した内容で開催回数も増やし、学生も聴講させていただきたい。 <p>B 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人を集めることはとても大変なことです。 地道に取組・努力されていると感じています。 <p>C 評価委員</p> <p>特になし。</p>
15. 図書館委員会
指摘事項の有無 有 (A 評価委員、C 評価委員) 無 (B 評価委員)
評価 評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員) 評価しない (なし)
<p><コメント></p> <p>A 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本を読む、資料を調べることは教員・学生にとって必要・有益であり大切である。 図書館の利用促進のための取り組みを評価する。 2. 本を読むことが少なくなっている今、「本を読むとはどんなことか、その喜びは」といった内容で学内の教員・事務職員が自分に影響を与えた読書の話や学生に聴いてもらう会を前期・後期1～2回開催していただきたい。 *卒業研究で初めて本を読みましたという学生がいました。その人は卒業後も本を読み続けて大学院に進学し、京都に在る大学に就職しました。 3. 図書館には貴重な資料がたくさんあるが教員・学生に周知できていない。 各学科の図書委員から教員・学生にどんな資料があるのかを話していただきたい。 <p>B 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. よく努力・整備されています。 <p>C 評価委員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業1「書籍・資料等の収集・整理・保管」について 教育・研究に必要な書籍等を安定的に収集できることが望まれる。

16. ハラスメント委員会	
指摘事項の有無	有 (A 評価委員、C 評価委員) 無 (B 評価委員)
評価	評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員) 評価しない (なし)
<コメント>	
A 評価委員	
1. 事業 1.2.3.4.5.は大学・短大が健やかに動いていくために必要である。	
2. 事業 1.2.3.4.5.をしっかりと実行していただきたい。	
3. 現代社会におけるハラスメントの実態についての講演会を、学生委員会・就職委員会と連携して卒業学年生を対象に開いていただきたい。	
4. ハラスメントの相談があったときは「ハラスメント被害者と加害者の関係」を慎重にチェックし、ハラスメント被害を訴えることで加害者（加害者として訴えられている人）を社会(学内)から葬ろうとする魂胆が稀にあることにも注意していただきたい。	
B 評価委員	
今後に期待をします。	
C 評価委員	
1. 事業 1「相談窓口の周知徹底」について 相談窓口が学生に周知されるよう案内の工夫が求められる。	
2. 事業 2「ハラスメント防止ガイドラインの周知徹底」について ハラスメント防止ガイドラインの周知に向けた取り組みの工夫が求められる。	
17. 事務局	
指摘事項の有無	有 (C 評価委員) 無 (A 評価委員、B 評価委員)
評価	評価する (A 評価委員、B 評価委員、C 評価委員) 評価しない (なし)
<コメント>	
A 評価委員	
1. 大学・短大事務局は自己点検・評価を通して大学・短大の現状を相対的・俯瞰的に見ることができた。	
2. 事務局員は部署ごとに学生との接点が多い。学生のために必要と思われることは事務局長・事務長に報告・相談した上で、学生が所属している学科長に報告・連絡していただきたい。	
B 評価委員	
1. 事務局のご支援のおかげで教務部は成り立っていると思っています。今後ともよろしくお願いします。	
C 評価委員	
1. 総務課（会計） 事業 1-2「次年度予算書集計」について 収支の均衡が保たれる予算編成が求められる。	

2. 総務課（管理） 行動目標 1-1「既存学舎建物に関する維持管理」について
老朽化に伴う突発工事が少なくなるよう、中期的な修繕計画の実質化が望まれる。
3. 総務課（管理） 行動目標 3-2「既存の備品に関する棚卸」について
備品台帳に基づき、正確な管理が求められる。
4. 入試課 「入学者の確保」について
大学および短期大学の定員充足に向けた総合的な見直しが期待される。
5. 図書館 事業 2-4「除籍処理」について
除籍対象資料の判別作業が合理的に進む対策が望まれる。

以上